

野田 九条通信

2009年7月号
44

「野田・九条の会」事務局
7122-0502
野田九条の会ホームページ
<http://www17.ocn.ne.jp/art.9/>

平和のための戦争展

8月8日～9日 中央公民館

8日(土) 半田滋さん講演会 10時～
映画「アメリカばんざい」 14時15分～

今年も野田市中央公民館1階ロビー、会議室、講堂、講座室を使い、平和と戦争についてじっくり考える集まりを展開します。

野田九条の会も実行委員会に参加。あまり報道されないアメリカ兵士の実態を描いた映画「アメリカばんざい」の上映や、『変わる自衛隊 とめどない日米一体化』と題する東京新聞記者の半田滋さんの講演などの催しは今年も必見です。

展示部門では、原爆の写真に加え、裁判で長く闘ってきた被害者訴訟の問題も展示します。また昨年開かれた九条世界会議の資料から世界から期待される九条、アフガニスタンで活動するペシャワール会の活動、戦争中の食生活として代替しよ

うゆの展示も。毎年好評のみんなのメッセージでは、今年は色紙に綾子さんと、絵手紙の先生の絵も加えて作成中です。お楽しみに！8月8日(土)、9日(日) 熱く語りましょう。詳しくはチラシで確認してください。

地域九条の会からの報告

「南地域九条の会」4月に行った「靖国」を見る会では40人の参加があり、活発な意見交換も行われ

た。メンバーが手分けをしてチラシまきもした。徐々に新しい参加者も増えている。毎月第1日曜日 南部公民館で開催。「ケヤキ九条の会」戦後の出来事について年表を使って学習をした。改めて年表で追ってみるとはつきりと変化がわかる。学習したことを今年の平和のための戦争展で発表する。毎月第4日曜日午前櫛のホール内で開催。

* 詳しい日時などは事務局にお問い合わせください。

九条への想い

「四方を敵に囲まれて、頭の上をビュンビュン弾が飛んでるんだ。そんな中銃弾に倒れた戦友の腕をもぎ取って、肩に担いで帰り、遺骨にして遺族に送ってあげたんだよ。」

これは、私が子どもの頃、父から聞いた話である。大スクリーンで見る映画よりも、リ

平和ボケなど、してはいられない

清水在住 小原 八枝子

「九条への想い」への400字程度の原稿をお待ちしています。

父。男達の留守を守る為、奔走しやがて内地にまで及び、東京大空襲を経験した母。そんな記憶は、まだ私

アルで想像力を掻き立てて目を丸くして聞き入ったものである。赤紙一枚で戦地に連れていかれ、戦いを余儀なくされた

の子どもの頃には鮮明に残っていたのだろう。よく聞かされたものである。その母は、去年の暮れに、父は10年前に他界

のならば、それはとても良いことだ。しかし幼い頃から、平和の大切さ、命の大切さ、民主主義の大切さを教え込まれた私達は、平和ボケなどしてはいられない。憲法九条は、どうしても守らなければ、と思う。

ご参加下さい

定例会 7月11日(土) PM 2時～
櫛のホール4階研修室
署名活動 7月9日(木) PM 5時～6時
愛宕駅前

九条の眼

「自分の人生をガメにしたのは、テロリストでも、9・11でもなく、イラク戦争への派遣だ。」

—— イラクからの米軍帰還兵

「無実の市民を殺しておいて、せめて説明があるべきではないでしょうか。」

—— モスクにお祈りに行った夫を米軍に殺されたバグダットの婦人

6月30日朝のNHKテレビは、「6年余りの米軍駐留、残されたのは混乱でした。相次ぐ誤爆、米兵によるイラク兵への虐待、厳しい取り締まりは一般市民にも及びました。反米感情が高まっていく中で、米兵の死者4,300人余りとなり撤退を求める世論を受け——。」と米軍のイラク都市部からの撤退を伝えていました。

「残されたのは混乱でした。」という戦争に、2005年自民党の憲法草案の文言通り「国際社会の平和と安全の確保」のためにと、強行成立させた「イラク特措法」をもっていち早く米英に協力した日本政府は、イラク国民の犠牲者10万人近くに上るといわれているこの付けをどう清算するのでしょうか。自衛隊の海外派兵を許してしまった私たちにも、「恒久法」、「改憲」などをどのように阻止していくのか、重い課題がのしかかっています。この夏も「平和のための戦争展のだ」をはじめ各地で戦争をさせない、核廃絶実現などを求める催しが開かれます。今年は誘い合ってたくさんの会場に出かけてみませんか。

2年前、テレビで戦時中の食についての番組を見ました。「ガソリン芋」と呼ばれる甘みのないサツマイモや道端の雑草と代替え調味料で作ったアクの強いスイートンなど、現在では食べ物と呼べないような食事の数々が紹介されました。これに興味を持ち、もう少し知りたいと思ってめぐり合ったのが、『戦下のレシピ—太平洋戦争中の食を知る』でした。この本では、上段生活の変化を、下段恵の料理(レシピ)が

昭和初期は裕福でもありましたが、一転した食糧難。「飢餓」があったことがよくわかる時代に生きる私は、と思いました。しかし、上のどこかでおきてこんな生活を二度と争」は絶対あってはな

新婦人では、この本を参考に、昨年「平和のための戦争展のだ」で、戦時中の食について展示発表を行いました(食べられる雑草の実物、スベリヒユのお浸し、アカザのごま和え、南瓜あんのふすま入りまんじゅう、一升瓶の精米機など)、たくさんの方々から好評を頂きました。今年は、野田ならではの「代用醤油の作り方」など、バージョンアップした展示を予定しています。

8月8、9日の「平和展」には、ぜひみなさまお誘い合わせ、中央公民館に足を運んでください。

岡部弘美

戦時中の食生活

「平和のための戦争展」展示発表

に戦争の経過と食には生るための「知紹介されています。モダンな食生活で戦争と共に訪れもう一つの「戦争」でます。飽食と言われこんな時代はイヤだそれは今でも地球いることなのです。経験しないよう「戦らないことだと痛感



ドキュメンタリー映画

藤本幸久監督作品 2008年

「平和のための戦争展のだ2009」にて上映

8月8日(土)14時15分~16時15分

野田市中央公民館 講堂

このドキュメンタリー映画は本当に凄い。凄ましい。堤未果さんとの対談でも話した「貧困と戦争」の問題が、その現実が余すところなく描かれている。貧困から、そして様々な事情から「生きるために」米軍兵士となり、イラクに送られて人を殺し、仲間の死体を片付け、帰国後はPTSDに苦しみ、ホームレスになってしまう若者たち。

アメリカのホームレスの3人に1人は元兵士と言われているという。貧困地域の学校は補助金欲しさに高校生の携帯番号を軍に売り渡し、リクルーターは「軍に入れば大学に行ける」と吹き込み、そしてイラクに送られていく貧しい若者たち。

8歳の子供を殺してしまった元兵士、友達の脳みそを片付けた女性兵士、「撃つ」と言われてメチャクチャに撃ちまくった若い兵士。

貧しい者が戦場に送られ、より貧しいイラクの人々を殺すことを強いられる。この映画を観ると、イラクに送り込まれる米軍兵士が「経済的徴兵制」の被害者である事が痛いほど伝わってくる。で、戦争を始めたブッシュは痛くも痒くもないわけだ。ぜひ、多くの人に観て欲しい。

雨宮処凛(作家)

(マガジン9条 080730up より)



「2009 平和のための埼玉の戦争展」

- ★テーマ 戦争をしない、させない平和の創造
- ★開催日 2009年7月30日(木)~8月3日(月)
- ★時間 10時30分~18時(最終日は15時30分迄)
- ★場所 JR浦和駅西口前コルソ7階ホール
- ★入場無料

1984年に始まった戦争展の草分けで、来場者が1万人を超し充実した展示が好評です。展示のほかいろいろなイベントもあります。